■第 30 回 START プログラム（ベトナム）

2016 年 3 月 2 日から 3 月 16 日までの 2 週間、第 30 回 START プログラムに学部 1 年生 24 人が参加し、小倉亜紗美助教（平和科学研究センター）ら 3 人の引率教職員とともに、ベトナムのホーチミン市にあるベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学（USSH）とその周辺地域を訪問しました。

人文社会科学大学では、現地教員による英語での「ベトナム語」の授業、ベトナムの「社会と文化」「歴史」「経済発展」や「戦争体験談」「東南アジアの国際問題」についての講義を受け、英語での授業に戸惑いつつも、意欲的に授業を受け、質問をする学生の姿が見られました。また、日本学部の学生との「平和な世界をつくるために出来ること」についてのディスカッションを通じ、ベトナム人の同年代の学生と平和について共に考えました。環境について学ぶホーチミン市環境資源大学を訪問した際には、ごみ処理方法や学生生活、そして気候変動の影響のベトナムと日本との違いについて、ベトナムの学生と英語でディスカッションを行い、発表しました。

大学外では、USSH の学生のガイドによる、歴史や戦争に関する博物館、旧南ベトナム政府大統領官邸の見学や、日本について学ぶ学生や社会人らのサークル「東日クラブ」との交流を行いました。また、工業団地や日系企業を訪問し、現地で働く日本人の話を聞くなど、現地の学生のみでなく現地で活躍する日本人の声を聞く機会も多くあり、将来留学など海外に出ることを意識して質問をしている学生もいました。その他にも、ホームビジット体験や孤児院、カンザー自然保護区のマングローブ林、クチトンネル、イオンモールなどの訪問をし、ベトナムの自然や歴史、経済発展を肌で感じ、学び取っていました。

渡航直後は生活、文化、食事など多くのことに戸惑っていた学生も、積極的にベトナム人学生と触れ合うことで、資料では見ること出来ない現地の生活を知り、日本とは異なる価値観に触れたりする中で次第にたくましくなりました。特に現地学生の学問に対する姿勢や現地で働く日本人の話に刺激を受け、「コミュニケーションの道具としての英語」を習得したいと意気込んでいました。

学生たちは、交流を通じて仲良くなった現地の学生と、SNS 等を通じてつながっています。今後もそれらを活用し、その絆を大切に育ててほしいと思います。

サイゴン大教会の前で記念撮影

ベトナム語の授業の様子

環境資源大学の学生と英語でディスカッション

クチトンネルで戦時中使用していた地中トンネルに入る学生

日本学部の学生との交流

ベトナムで働く日本人の話を聞きました

授業で質問に答える様子